

日本ペット栄養学会のペットフードの安全確保に関する取組み

日本ペット栄養学会

1. 日本ペット栄養学会 (Japanese Society of Pet Animal Nutrition) の概要

- 目 的 ペットの栄養、健康増進及びペットフードの品質向上等に関する
会員相互の知識、技術の向上とその普及をはかること。
- 事 業
 - 1) ペットの栄養等に関する研究会の開催
 - 2) 機関紙その他印刷物の発行
 - 3) ペットの栄養等に関する調査研究の推進
 - 4) ペット栄養管理士の養成
 - 5) その他この学会の目的を達成するために必要な事業
- 事務局 社団法人 日本科学飼料協会内
ペット栄養管理士認定事業はペットフード工業会に委託
- 設 立 平成 10 年 (1998 年) 6 月 16 日
- 会 長 本好 茂一 日本獣医生命科学大学名誉教授
- 副会長 辻本 元 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
- 理 事 大学、企業等の学識経験者 16 名 (うち常任理事 7 名)
- 監 事 大学の学識経験者 2 名
- 委員会
 - ペット研究推進委員会
 - ペット栄養管理士認定委員会
 - ペット栄養学会誌編集委員会
 - ペット栄養学会大会運営委員会
- 会 員 平成 19 年 3 月末日現在

正会員	756 名	大学及びペット関連企業等の研究者・従業員、 獣医師、動物病院・ペットショップ等の従業 員、一般企業の従業員、主婦等
学生会員	139 名	
賛助会員	31 社	

2. 日本ペット栄養学会におけるペットフードの安全に関する取組み

学会の活動の中での「ペットフードの安全に関する取組み」は、大別すると、ペット栄養管理士養成講座における啓蒙活動と学術・研究発表大会、講演会開催、海外派遣を通しての研究や情報の紹介、収集になります。その活動の概要例は次の通りです。

ペット栄養管理士養成講座を通しての啓蒙活動

当学会は“ペットの栄養に関する知識の普及と指導に必要な人材を養成し、ペットの健康維持向上を図り、もって動物の愛護に寄与すること”を目的に、ペット栄養管理士認定規則に基づき「ペット栄養管理士」の認定事業を行なっております。

ペット栄養管理士とは、ペットの栄養に関する知識の普及と指導を行なう者で、平成19年3月末日現在640名のペット栄養管理士が当学会の認定を受けております。

資格取得には以下の要件の全てを満たすことが必要です。

- 資格取得；養成講座（講習会）の全教程（3教程、計27講座）を終了する、あるいは大学における獣医学、畜産学、農芸化学等の課程修了者などの受験資格を満たすこと。
- 年二回開催される認定試験（ペットフード総論、ペット基礎栄養学、ペット臨床栄養学）に合格すること。
- 認定登録を行なうこと（登録には本学会会員であることが条件）。

当学会ではペット栄養管理士の養成、認定のため、以下の活動を行っております。

- 講習会の開催 年2回、受講者数約800名/回
- 認定試験実施 年2回、受験者数約200名/回

ペットフードや食餌の安全確保については、この講習会で、例えば次のようなことが説明されています。

- ペットフードの添加物についての業界の自主規制
- プロピレングリコールやキシリトールが特定の動物に弊害を起こすこと
- 玉ねぎやチョコレートなどが犬猫の健康に悪影響を及ぼす懸念があること

学術大会の開催での安全確保に関する研究の発表

全国規模の学術大会を年1回開催し、会員からの研究発表会を開催しております。安全に関する研究発表として例えば以下のものがあります。

- ドライキャットフードと猫下部尿路疾患(FLUTD)に関する一連の研究(1999.6～2007.7)・・・複数の研究機関よりこの期間に30件弱の発表あり。
- 並行輸入されたペットフードのメラミン及び関連物質について(2007.7)

研究者への研究助成

ペットの栄養に関する研究に対しては、これまで奨励金交付を多くしてきました。過去に応募例がありませんでしたが、ペットフードの安全に関する研究に対しても奨励金交付の対象となっております。

学会誌の発行

年2回発行。発行部数は1,500部

安全に関する論文、技術情報等の投稿例としては以下のものがあります。

- (総説) キャットフードの蛋白質含量とスツルバイト尿石形成能；阿部又信(1998.10)
- (技術情報) 欧米におけるペットフードの品質・安全性確保制度；阿部又信(2002.1)
- (原著論文) 市販ドッグフードのPOV変化と合成酸化防止剤；吉田みづ穂他(2005.10)
- (技術情報) FEDIAF(欧州ペットフード工業会連合)の新しい製造基準；大木富雄(2006.4)
- (技術情報) Petfood Forum および Focus on Treats 参加の記；大島誠之助(2007.10 予定)

安全に関する海外の論文の紹介例としては以下のものがあります。

- 食餌中の銅はネコの繁殖に影響を及ぼす(2002.1)
- ニューファンドランド犬で見られる血漿タウリン濃度の低値は、血漿メチオニン、シスチン(システイン)濃度が低いことならびにタウリン合成が低いことと関係する(2007.4)

海外講演会派遣

本年4月、シカゴのPetfood Forum & Petfood Focusに海外最新情報を入手すべく理事1名を派遣しました。この結果は、上述に掲げた最後の(技術情報)の事例で報告される予定です。

招待・教育講演による啓蒙活動

以下の活動を行っております。

- ペットフードに使用する原材料と栄養学 ペットフード会社とFDAならびにPFIとの関係；C. S. Cowell(ペットフード工業会第11回講演会、ペット栄養学会第1回大会にて講演)
- 犬および猫の慢性腎不全の栄養管理；D. J. Chew(2004.8 第5回大会)

以上